世界の中の自分 見つめる

ニュース検定の過去問題（今年6月検定）に挑戦

1級 18、19歳を「厳罰化」する改正少年法が2021年５月、成立しました。18、19歳について例えば、「原則逆送」とする対象事件を拡大します。「逆送」とはどのような手続きですか。「家庭裁判所」「検察官」「刑事裁判」という言葉を必ず使って60字以内で説明しなさい。

2級 日本国内の環境問題への取り組みに関する次のＡ～Ｄについて、正誤の正しい組み合わせを①～④から一つ選びなさい。

Ａ：国内で排出されるプラスチックごみの大半は、埋め立て処分されている。

Ｂ：コンビニエンスストアなどで配布される全てのレジ袋が有料化されている。

Ｃ：二酸化炭素の排出量を削減するために、「地球温暖化対策税」の導入が検討されている。

Ｄ：政府は、2030年までに温室効果ガスの国内排出量を「実質ゼロ」とする目標を掲げている。

① Ａ－正 Ｂ－正 Ｃ－正 Ｄ－正
② Ａ－誤 Ｂ－正 Ｃ－誤 Ｄ－正
③ Ａ－正 Ｂ－誤 Ｃ－正 Ｄ－誤
④ Ａ－誤 Ｂ－誤 Ｃ－誤 Ｄ－誤

準2級 「おいしく食べられる期限」である【Ａ】に対して、【Ｂ】は「食べても安全な期限」を示します。【Ａ】は例えば【Ｃ】、【Ｂ】は例えば【Ｄ】に表示されます。空欄のうち【Ａ】（２カ所）、【Ｃ】に当てはまる語句の正しい組み合わせを、①～④から一つ選びなさい。

① Ａ－賞味期限 Ｃ－弁当や生菓子
② Ａ－賞味期限 Ｃ－缶詰やスナック菓子
③ Ａ－消費期限 Ｃ－弁当や生菓子
④ Ａ－消費期限 Ｃ－缶詰やスナック菓子

3級 日本国憲法によると、憲法を改正するには衆参各議院の「総議員の【Ａ】」の賛成で国会が発議し、国民に提案して、国民投票で【Ｂ】の賛成を得る必要があります。【Ａ】【Ｂ】に当てはまる言葉の正しい組み合わせを、①～④から一つ選びなさい。

① Ａ－過半数　Ｂ－過半数
② Ａ－過半数　Ｂ－３分の２以上
③ Ａ－３分の２以上　Ｂ－３分の２以上
④ Ａ－３分の２以上　Ｂ－過半数

4級 「ＧＡＦＡ（ガーファ）」とも呼ばれる、アメリカのグーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン・コムの４社それぞれの仕事のうち、主な共通点は何ですか。正しいものを①～④から一つ選びなさい。

① 大規模な土地で作物を栽培する。
② 自動車やトラックなどを製造する。
③ インターネット上でサービスを提供する。
④ 電気・ガス・水道を個人や企業に提供する。

5級 「数十年に１度」の大雨、大雪などで重大な災害が起きる可能性が高い時、国（気象庁）は【Ａ】を出します。一方、地方自治体は災害に備えて、避難場所などを示す「【Ｂ】マップ」を作っています。【Ａ】【Ｂ】に当てはまる言葉の正しい組み合わせを、①～④から一つ選びなさい。

① Ａ－特別警報　Ｂ－ドライブ
② Ａ－特別警報　Ｂ－ハザード
③ Ａ－天気予報　Ｂ－ドライブ
④ Ａ－天気予報　Ｂ－ハザード

【　Ｂ　】マップの一例
＝名張市（三重県）提供

過去問題の答え
【１級】（正答例）家庭裁判所が刑事処分相当と判断した少年を、検察官に送り返す手続き。検察官が起訴すれば、一般の刑事裁判で審理される。
【２級】④ 【準２級】② 【３級】④ 【４級】③ 【５級】②

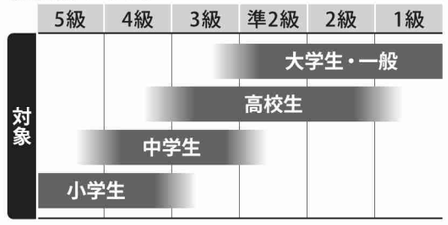
2級から５級の検定問題は公式テキスト・問題集から約６割が出題されます。
ニュース検定の試験会場は受検者が安心して試験に取り組めるよう、民間検定試験における感染症対策ガイドラインに基づいて、一定間隔を空けて座席を使用し、マスク着用、手指の消毒の依頼を徹底しています。

次回は11月21日

ニュース検定は中学・高校入試で時事問題対策に役立つほか、2022年度から始まる高校の必修科目「公共」の学習に必要な時事の知識を学ぶことができます。全国約400の大学・短大の入試で評価・優遇されており、就職活動では、エントリーシートに記載することで時事力が評価されます。社会人のキャリアアップや生涯学習の教材としても幅広く活用されています。

次回のニュース検定は11月21日（日）に全国38都市で実施されます。申し込みは公式サイトの「受検者用マイページ」から。払込取扱票（申込書）をご希望の方は受験サポートセンター（03・5209・0553、平日午前10時～午後５時）までお問い合わせください。検定料（税込み）は１級6900円、２級4800円、準２級3800円、３級3300円、４級2800円、５級2700円。払込取扱票による申し込みは９月30日（木）締め切り、公式サイトからの申し込みは10月７日（木）締め切り。

受検級のめやす



併願受検お得に

今年６月の検定で累計志願者数が50万人を突破したことを記念し、11月21日の次回検定において、二つのキャンペーンを実施します。

１級と２級または２級と準２級を併願でお申し込みいただくと、１・２級は１万1700円を9700円に2000円割引、２・準２級は8600円を7600円に1000円割引します（いずれも個人受検者のみ）。２級、準２級を受検する方はこの機会に、ステップアップに挑戦してください。詳細は公式サイトをご覧ください。

また、９月21日までに１級、２級、準２級のいずれかを受検者用マイページからお申し込みいただいた方の中から、抽選で50人に「2021年度版ニュース検定公式問題集（１・２・準２級）」＝写真＝をプレゼントします。３級以下は対象外です。お問い合わせは日本ニュース時事能力検定協会事務局（03・3212・5116、平日午前11時～午後３時）まで。

ニュース時事能力検定試験 検NEWS 時事能力検定

志願者 50万人突破

新聞やテレビのニュース報道を読み解く力を養う「ニュース時事能力検定試験」の志願者が累計50万人を超えました。2007年のスタートから15年目を迎え、毎日新聞社や朝日新聞社、全国の地方新聞社・放送局が主催し、入試や就職に役立つ検定として活用が広がっています。新聞を使った授業を実践してきた法政大学名誉教授で「尾木ママ」こと、尾木直樹さん（74）に、新聞の魅力やニュース検定に取り組む意義などについて聞きました。

【聞き手・毎日教育総合研究所代表取締役、尾崎敦】

尾木直樹さんが語る新聞の魅力

学校の授業での新聞の活用歴は40年以上になります。中学校の教員の時は、生徒が自分の好きな記事をスクラップして、記事を読んだ感想や意見を書き込む「書き慣れノート」を作っていました。選ぶ記事や何を書くかは私が指定するのではなく、生徒が各自で考えて決めるようにしていました。始めてから1カ月もたつと、生徒のニュースや記事に対する感覚が鋭くなり、メディアリテラシーが身に付くのを実感しました。新聞記事は書き出しの部分に結論があり、センテンスが短くて文章作法のお手本です。読み手に伝わる簡潔な文章が素早く書けるようになり、担当したクラスの国語の成績が格段に伸びて効果は抜群でしたね。

一覧性で幅広く

大学では臨床教育学のゼミで、学生が教育をテーマにした新聞記事を持ち寄り、グループワークで意見を出し合って共有しました。新聞は今の生の教育を学ぶ教材として一番。一覧性があり、1面から最終面までめくっていけば、自分の興味が薄かったテーマも含め、多様な記事が目に入り、幅広くニュースを知ることができます。記事だけではなく、広告も大人の世界や時勢を知る重要な手段です。

インターネットのニュースはタイトルが並んでいるだけですが、新聞の見出しは文字の大きさや書体、白抜きなどの装飾でニュース価値に差をつけ、読み比べれば新聞によって記事の扱いに違いがあることもわかります。

最近の若者が新聞を読まなくなっていることは肌で感じています。私の教員時代の1970～80年代ごろ、中学では家庭で新聞を取っていない生徒は1クラスに1人ぐらいでしたが、大学で教壇に立っていた90年代以降は新聞を取っていない学生は年々増え、授業では仕方なくインターネットの記事も扱いました。最近、小学4年の孫のために小学生新聞を何紙か試読していますが、大人の目線で作った子ども向けの新聞なので、残念ながら子どもの視点が足りない印象です。子どもがドキドキして読みたくなるような工夫がもっとあるといいですね。

16年から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられましたが、若者の投票率が極めて低いのは、子どもたちが小・中・高校時代から日常的に社会参加する経験をしていないからです。欧米では学校は民主主義のトレーニング場とされ、アメリカでは大統領選挙の時などは子どもによる模擬投票が盛んに行われています。

多様な価値観養う

新聞は5紙購読しています。全紙に目を通し、重要な記事は保存しています。私は基本的にはアナログ派ですが、テレビ番組のコメンテーターを務めているので、芸能関係のニュースはインターネットで読んでいます。ネットやSNSでフェイクニュースが拡散し、社会が分断される中で、正しいものの見方や多様な価値観が身に付くのはやはり新聞ですね。

最近の新聞記事で目に留まったのは、教員免許に10年の有効期間を設け、更新時に講習の受講を義務づけている「教員免許更新制」廃止のニュースです。教員の資質が問題になり、文部科学省が09年度から始めたこの制度が廃止されることになったという記事です。免許更新のための3万円の講習費用のほか、交通費も宿泊代も自己負担で、遠方から大学の教育学講座を受講に来る先生には負担が重いことなどから、私は導入する時から更新制には反対でした。

来年度から高校の社会科で必修科目となる「公共」は、主権者教育や18歳選挙権と連動して重要です。有権者となる18歳を高校の3年間で育てるには、知識を教えるだけでなく、フィールドワークも必要です。ニュース検定は総合的な探究の学習に役立ち、大学入試の共通テスト対策にもなる。学校でニュース検定の教材を使う先生が増えると思います。

検定の問題を私も解いてみましたが、テレビのクイズ番組のようにIQ（知能指数）の高さを競うものではありませんね。世界の動きの中で、自分がどう生きていくかを考える内容で、教育的価値は高い。合否の結果だけでなく、検定試験に取り組むプロセスが重要です。今年で15年目になり、全国の新聞社が共催しているので、テキストの内容に偏りがなく、教材として教育現場で扱いやすいと思います。

行き過ぎた学校内のルールが「ブラック校則」と呼ばれて問題になっていますが、生徒が主役でつくられていれば、理不尽な校則ができるはずがない。欧米では生徒が主体となってルールを決めるのも珍しくありませんが、日本では当事者である子どもが置き去りにされています。

新型コロナウイルス感染拡大の若者への影響は深刻です。特に短期大学の2年生は、入学直後から授業はオンラインで、2年目の卒業年度に就職指導を受けられず、大学にほとんど通えないのに授業料を払わされて憤っています。そういう学生の声が政治に届かないから、若者に諦めが広がり、政治離れが進んでしまう。今の若者は堅実で高望みしない人が多く、「さとり世代」などと名付ける評論家もいますが、若者が社会参画を実感できないから、社会への責任感も伴ってこないのです。

シニア世代にも

社会経験を積んだシニア世代が引退後に悠々自適の生活をするのもいいですが、社会に参加するため生涯学習としてニュース検定に取り組めば、頭の体操になります。高齢者施設で希望者を募って受検するのもいいかもしれませんね。